

第3章 都市の将来像

3-1. 都市づくりの目標とテーマ

3-1-1. 都市づくりの基本理念

本市の都市づくりの基本理念は、上位計画である「第2次栗原市総合計画」において定められた市政運営の理念『市民が創る くらしたい栗原』を共有していくものとします。

古来より栗駒山を水源とする清らかな水が、複数の河川を經由して、栗原で暮らす人々の生活に繁栄をもたらせてきました。栗原の歴史は、自然環境と人々の日常生活が良好な関係を築いてきた歴史でもあります。

そして現在においても、先人から引き継いできた自然が多く残されており、都市型の生活環境に疑問を感じている現代人が抱く「自然と共生しながら自分らしく生きるための理想的な生活環境」への憧れを受け入れる可能性を残しています。

これからの栗原市において、恵まれた自然環境を生かし、国際的視野と情報を携えた、人間社会が築くべき環境と共生する理想的な生活空間を創造するために、市政運営の理念として掲げた、

「市民が創る くらしたい栗原」

を前総合計画から継承し、市民が主体的になって地域づくりに取り組むこれまでのまちづくりをさらに進めるため、次のとおり市の将来像を提示します。

(出典：第2次栗原市総合計画)



3-1-2. 都市づくりの目標

本マスタープランが目指す都市づくりの目標は、上位計画（第2次栗原市総合計画、第2次栗原市国土利用計画）や都市づくりの課題、住民意見を踏まえた将来像等を基に、次の5つの目標を設定します。

都市構造

都市づくりの課題

- 〔住宅地〕住環境の向上
- 〔商業地〕都市機能の集積、適正な土地利用
- 〔交通〕道路整備・維持、公共交通の充実
- 〔公共施設等〕適正配置

第2次栗原市総合計画 : 質の高い暮らし、小さなコミュニティ

第2次栗原市国土利用計画 : 自然環境とのバランス

都市づくりの目標

〔1〕中心地や各地域が利便性の高い公共交通で結ばれた田園都市構造の形成

各地域の中心地に都市の機能がコンパクトに集積し、これらの拠点が利便性の高い交通ネットワークにより有機的に結ばれた都市構造の形成を推進します。（コンパクトシティ・プラス・ネットワーク*）

都市を支える持続可能な交通体系の構築に向け、バスやデマンド型交通などのサービスによる地域内外及び広域への移動需要に対応した公共交通網の形成を持続します。

※栗原市が目指すコンパクトシティ・プラス・ネットワーク

市民生活の質的向上を図るため、各地域に身近な生活基盤の充実と形成を図りながら、市の中心となる地域へ医療・福祉、商業施設、公共施設などの都市機能を集積し、それぞれの地域を利便性の高い公共交通で結ぶ都市構造を目指すもの。

自然環境と文化の保全・活用

都市づくりの課題

- 〔農地・自然〕自然環境と農地、山林の保全、景観形成
- 〔公園・緑地〕公園・緑地の維持管理
- 〔河川・下水道〕河川等の維持、下水道の整備
- 〔公共施設等〕交流施設等の維持活用
- 〔景観〕自然環境と歴史文化の保全、観光振興、景観づくり

第2次栗原市総合計画 : 美しい景観、地域資源

第2次栗原市国土利用計画 : 優良な農地

都市づくりの目標

〔2〕豊かな自然環境及び歴史文化の保全と観光への活用

本市を象徴する豊かな自然環境と歴史文化を維持・保全していくことを基本とし、この貴重な田園・森林、歴史文化等の資源を後世に継承可能なまちづくりを推進します。

豊かな自然を将来に継承するために、保全と活用のバランスが取れた計画的な土地利用を推進するとともに、地域資源としての活用を推進します。

商工業の振興

都市づくりの課題

〔商業地〕賑わいの再生

〔工業地〕企業誘致、雇用の促進、産業の活性化

第2次栗原市総合計画 : 産業育成、企業誘致

第2次栗原市国土利用計画 : 商業地形成、良好な事業環境、産業集積拠点

都市づくりの目標

〔3〕商工業の振興に向けた基盤整備

住民の要望の多様化や高齢化社会に対応した地域経済の基盤を整備するため、親しみやすく魅力的な商業地形成への支援や、既存産業の良好な事業環境の整備を推進します。

市内の有利な高速交通網と築館インター工業団地及び若柳金成インター工業団地をはじめとする工業団地を最大限に活用した産業集積拠点の形成を目指し、新しい産業の立地・育成のために必要な措置を講じます。

中核機能地域の形成

都市づくりの課題

〔住宅地〕居住誘導

〔商業地〕都市機能の集積、賑わいの再生

〔交通〕道路整備、歩行空間の確保、公共交通の充実

〔公園・緑地〕公園・緑地の適正配置

〔公共施設等〕適正配置

〔景観〕景観づくりの誘導

第2次栗原市総合計画 : 安全・安心、市民参加型まちづくり

第2次栗原市国土利用計画 : 交流人口増、生活の質的向上

都市づくりの目標

〔4〕新たな中核機能地域の形成

国道4号築館バイパスや、みやぎ県北高速幹線道路など、高速交通網の結節点となる、東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館地域宮野地区までの地域を新たに中核機能地域として位置付け、将来的な市民の要望への対応や、交流人口の増加を図るために必要な施策を展開します。

あわせて、市内各地区における市民生活の質的向上を図るため、生活基盤の整備や利便性が高い交通ネットワークの構築等を推進し、広い市域の効果的な土地利用を推進します。

防災・減災

都市づくりの課題

〔公園・緑地〕公園・緑地の適正配置

〔河川・下水道〕治水機能の強化、浸水被害対策（河川）

〔防 災〕都市防災、自主防災活動等

第2次栗原市総合計画 : 安全・安心

第2次栗原市国土利用計画 : 防災基盤の強化、最小限の被害

都市づくりの目標

〔5〕災害に強いまちづくりの推進

防災基盤の強化を図り、市民が安全に安心して暮らすことができるよう、地震や風水害等の自然災害に備えた土地利用、さらには被害を最小限に抑える防災・減災を目指した土地利用を推進します。

地域ぐるみの防災体制を確立するため、自主防災組織など市民の自主的な防災活動を支援し、災害に強いまちづくりを推進します。

3-1-3. 都市づくりのテーマ（将来都市像）

本市の都市づくりのテーマは、上位計画等における都市づくりの理念、本マスタープランにおける都市づくりの目標等を踏まえて、『自然と都市、人と文化が織りなす田園都市 くりはら』と設定します。

【都市づくりの目標とテーマ（将来都市像）】

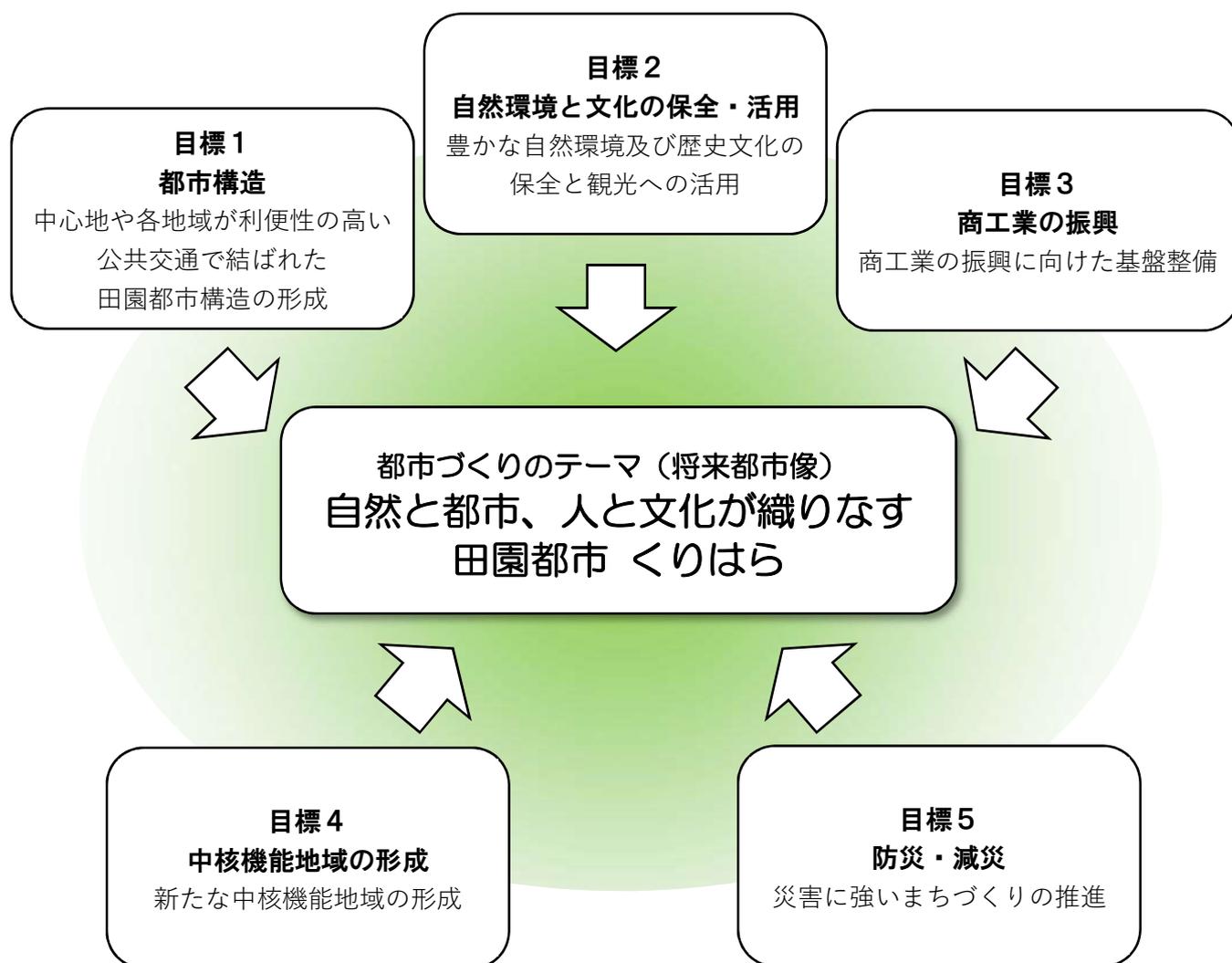


図 3-1 都市づくりのテーマの概念

都市づくりの目標とテーマ（将来都市像）の流れ



3-2. 将来フレームの設定

将来フレームは、将来の都市や市街地の大きさ・枠組みを数値で表現します。本マスタープランでは、人口・世帯、産業経済、土地利用の項目について、将来のフレームを定めます。

3-2-1. 人口、世帯

将来フレーム設定に向けた考え方	将来フレーム				
	項目	基準年次	令和 12 年	令和 22 年	
<p>◆総人口は、市全体で微減傾向にあり、さらに将来、我が国の人口減少が予測される中で、今後とも減少傾向が継続されるものと想定されます。</p> <p>◆各種の定住施策を展開し、人口の減少率の低下を抑制します。</p> <p>◆核家族化の進展に伴い、世帯当たり人員は今後とも減少傾向と想定されます。</p> <p>◆都市機能が集約されている市街地や各地域の中心地への定住人口を確保していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途地域内への定住促進による世帯数の増加 ・用途地域内の現住人口の維持と減少率の抑制 	市全体	人口	(平成 27 年) ^{※1} 69,906 人	55,700 人	48,000 人
		世帯	(平成 27 年) ^{※1} 23,133 世帯	20,600 世帯	19,100 世帯
		世帯人員	(平成 27 年) ^{※1} 3.02 人/世帯	2.71 人/世帯	2.51 人/世帯
	用途地域	人口	(平成 27 年) ^{※1} 12,900 人	12,300 人	11,500 人
		世帯	(平成 27 年) ^{※1} 4,300 世帯	4,500 世帯	4,600 世帯
		世帯人員	(平成 27 年) ^{※1} 3.02 人/世帯	2.71 人/世帯	2.51 人/世帯

3-2-2. 産業

将来フレーム設定に向けた考え方	将来フレーム			
	項目	基準年次	令和 12 年	令和 22 年
<p>◆各種支援事業を展開し、市内企業の技術力・生産力向上によって受注・生産等拡大を促進するとともに、高速交通体系を活かした新たな産業基盤整備と企業誘致の推進を図ります。特に、自動車・高度電子機械・食関連のほか、製造業を支える物流産業を支援することにより製造品出荷額の増加を目指します。</p> <p>◆中心市街地や各地域の商店街の活性化支援などによる商業地の再生と、東北新幹線くりこま高原駅周辺の大型ショッピングセンターの出店や田園観光都市づくりの展開等の観光・交流振興などによって広域的な集客力の向上等に取り組み、商品販売額が微増していくことを目指します。</p>	製造品出荷額	(平成 29 年) ^{※2} 109,237 百万円	131,800 百万円	143,500 百万円
	年間商品販売額	(平成 28 年) ^{※3} 89,688 百万円	94,000 百万円	95,700 百万円

※1 国勢調査（平成 27 年）より

※2 工業統計調査（平成 29 年）より

※3 商業統計調査（平成 28 年）より

3-2-3. 土地利用

将来フレーム設定に向けた考え方	将来フレーム			
	項目	基準年次	令和 12 年	令和 22 年
<p>◆都市的土地利用を図る区域と自然環境、集落・田園環境を保全する区域を明確にし、無秩序な市街地の拡大の抑制を基本とします。</p> <p>◆用途地域内の世帯数の増加に対応する住宅地需要は、現用途地域内で確保します。用途地域内には、未利用地が多く残っている状況から、住宅系市街地の拡大は基本的に行わないものとしします。</p> <p>◆東北新幹線くりこま高原駅周辺は、移住定住を促進する住環境を創出するため住宅系市街地を規制誘導していきます。</p> <p>◆工業地は、原則として、既存の工業地の規模を維持していきます。</p> <p>◆商業地は、築館地区、若柳地区の商業系市街地を維持していきます。</p> <p>◆東北新幹線くりこま高原駅周辺や IC 周辺の都市的開発の見込みがある地域や幹線道路整備等に併せた沿道街区等、必要に応じて商業地を計画的に規制誘導していきます。</p>	住居系市街地	(令和 2 年) 479.3ha ^{※4}	479.3ha (現状維持)	479.3ha (現状維持)
	工業系市街地	(令和 2 年) 290.6ha ^{※4}	290.6ha (必要に応じて拡大)	290.6ha (必要に応じて拡大)
	商業系市街地	(令和 2 年) 56.1ha ^{※4}	56.1ha (必要に応じて拡大)	56.1ha (必要に応じて拡大)

※4 用途地域面積

3-3. 将来都市構造

将来都市構造は、将来の都市の骨格をなす姿形を概念図で表現します。本マスタープランでは、「骨格となる都市軸」「基本ゾーニング」「都市の拠点」の配置、機能の位置づけを定めます。

3-3-1. 都市軸

(1) 広域高速軸

- ・対象路線：東北縦貫自動車道、みやぎ県北高速幹線道路、東北新幹線
- ・仙台都市圏をはじめ県内外の主要都市、さらには首都圏を直接的に結ぶ高速交通ネットワーク軸を形成します。

(2) 広域骨格都市軸

- ・対象路線：国道4号及び国道4号築館バイパス
- ・国道4号及び国道4号築館バイパスは、東北縦貫自動車道や東北新幹線の広域高速軸と合わせて、東北地方の大動脈となるネットワークの一翼を担う骨格軸として位置づけます。
- ・本市においては、築館地域の市街地内の骨格を形成するとともに高清水地域、金成地域を通り、さらに隣接する大崎市や一関市の中心市街地をはじめとする主要都市間を連絡し、広域的な都市活動を支える南北方向の都市軸を形成します。

(3) 広域都市軸

- ・対象路線：国道398号、国道457号
- ・国道398号は、隣接する登米市、秋田県湯沢市などの都市間を連絡する東西方向の広域的な都市軸として位置づけます。本市においては、築館地域及び若柳地域の市街地内の骨格を形成するとともに、双方の市街地間を直接的に結び、さらに志波姫地域、一迫地域、花山地域の中心地を連携する東西方向の都市軸を形成します。
- ・国道457号は、市域の西側を南北方向に通り、市内を縦断して大崎市や一関市などの隣接都市間を連絡する南北方向の広域的な都市軸として位置づけます。本市においては、栗駒地域と鶯沢地域の中心地や花山地域を連携する南北方向の都市軸を位置づけます。

(4) 地域軸

- ・対象路線：
(主) 古川佐沼線、(主) 中田栗駒線、(主) 栗駒岩出山線、(主) 河南築館線、
(主) 築館登米線、(主) 築館栗駒公園線、(主) 古川一迫線、(一) 真山高清水線、
(一) 若柳築館線、(一) 伊豆沼くりこま高原駅線、(一) 栗駒金成線

※ (主)：主要地方道、(一)：一般県道

- ・広域骨格都市軸及び広域都市軸を補完し、市内に分布している地域やIC、東北新幹線くりこま高原駅などを機能的に結ぶことで、田園都市を構成する利便性の高い交通ネットワークを形成し、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現を図ります。

3-3-2. 基本ゾーニング

《基本的な考え方》

都市的な土地利用を促進する「都市的土地利用ゾーン」と自然や田園環境の維持・保全を基本に、無秩序な都市化を抑制する「環境保全ゾーン」の明確な区分を行います。

(1) 都市的土地利用ゾーン

①市街地ゾーン

- ・ 築館地域及び若柳地域の用途地域が指定されている地域を位置づけます。住居・商業・工業等の土地利用と地域生活及び都市活動に必要な機能が適正かつ効率的に配置された「機能集約型市街地」の実現を目指します。

②中核機能ゾーン

- ・ 国道4号築館バイパスや、みやぎ県北高速幹線道路など高速交通網の結節点となる東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域を位置づけます。
- ・ 市民にとって新たな中心地域として、新たな交流や賑わいを創出する都市機能が集積した中核機能ゾーンの形成を目指します。

(2) 環境保全ゾーン

①平地ゾーン

- ・ 広大で肥沃な田園地帯やラムサール条約湿地「伊豆沼・内沼」等を有していることから、良好な自然・農地の環境保全を推進します。
- ・ 高速交通の利便性の高い地域であることから、良好な交通条件を活かした工業団地の形成など、新たな土地利用展開も需要に応じて適切に誘導していきます。

②中山間ゾーン

- ・ 農業が盛んな地域であることから、農地等の保全と生産基盤の整備を促進します。農地等と共存して形成されている各地区の中心地や集落地は、道路等の交通アクセス及び地域間連携の強化を図るなど、豊かでゆとりある快適な住環境の充実を目指します。

③森林保全ゾーン

- ・ 栗駒山麓を中心とした豊かな自然に囲まれた森林地帯については、将来にわたって市の自然財産として保全、継承に努めます。
- ・ 自然環境の保全を図りながら、自然とふれあう観光・レクリエーション空間の形成を目指します。

3-3-3. 都市拠点

(1) 市街地都市拠点

- ・用途地域をもつ築館地域並びに若柳地域の中心地を位置づけます。各地域の中心市街地を形成し、商店街や業務施設・行政施設等の都市機能が集積する都市拠点を形成します。
- ・既存の都市機能を維持・活用するとともに、公共交通等で利用可能な市民生活に必要な都市機能の適正な誘導を図ります。

(2) 中核生活拠点

- ・中核機能ゾーンに位置する栗原中央病院周辺、みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺及び東北新幹線くりこま高原駅周辺を位置づけます。

①生活創造拠点（栗原中央病院周辺）

- ・既設の都市機能を補完し、市民の暮らしの安全の維持向上と、暮らしの質の向上に寄与する広場・公園機能、多世代多地域交流機能、子育て支援機能、防災機能等が充実した拠点の形成を図ります。

②商業観光拠点（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺）

- ・周辺の良い交通環境など将来的なポテンシャルを活かし、本市の雇用の創出に寄与する産業振興機能、休憩施設機能、情報発信機能、交通アクセス機能等が充実した拠点の形成を図ります。

③移住・交流拠点（東北新幹線くりこま高原駅周辺）

- ・市の玄関口としてふさわしい宿泊機能や飲食機能を高め、来訪者が少しでも長く滞在したくなる魅力ある交流の場や、交流を契機とした移住を促進する住環境が充実した拠点の形成を図ります。

(3) 都市生活拠点

- ・平地ゾーン、中山間ゾーンに位置し都市計画区域を有する栗駒地域、金成地域の中心地を位置づけます。
- ・生活に密着した商業・業務・総合支所等の施設のほか、地域医療の中心となる市立病院、市民の雇用の場となる工業団地など、豊かな都市生活に必要な機能が確保された生活拠点の形成を図ります。

(4) 地域生活拠点

- ・平地ゾーン、中山間ゾーンに位置する高清水地域、一迫地域、瀬峰地域、鶯沢地域、花山地域の中心地を位置づけます。
- ・それぞれの地域における生活に密着した商業・業務・総合支所等の施設の集積と各地域がこれまで育んできた地域個性を活かした交流、コミュニティの活性化を図る場となる生活拠点を形成します。
- ・拠点の中心集落においては、地域住民が行政や事業者、各種団体と協力・役割分担をしながら、日常生活に必要な機能の集約等を行うことにより、地域課題の解決や地域生活の利便性の維持・向上を図り、住み慣れた地域に住み続けられる地域づくりを推進します。

(5) 広域交通拠点

- ・本市への広域交通の玄関口となる東北新幹線くりこま高原駅、東北縦貫自動車道築館 IC 及び若柳金成 IC の各周辺を位置づけます。
- ・各種交通機関の結節機能の充実を図るとともに、市の玄関口にふさわしい駅前・沿道景観づくりを誘導します。

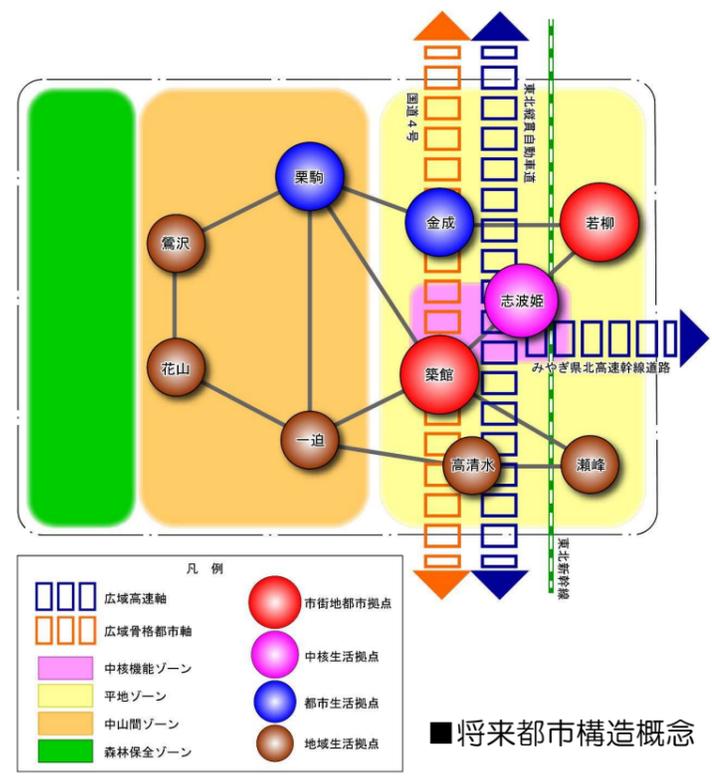
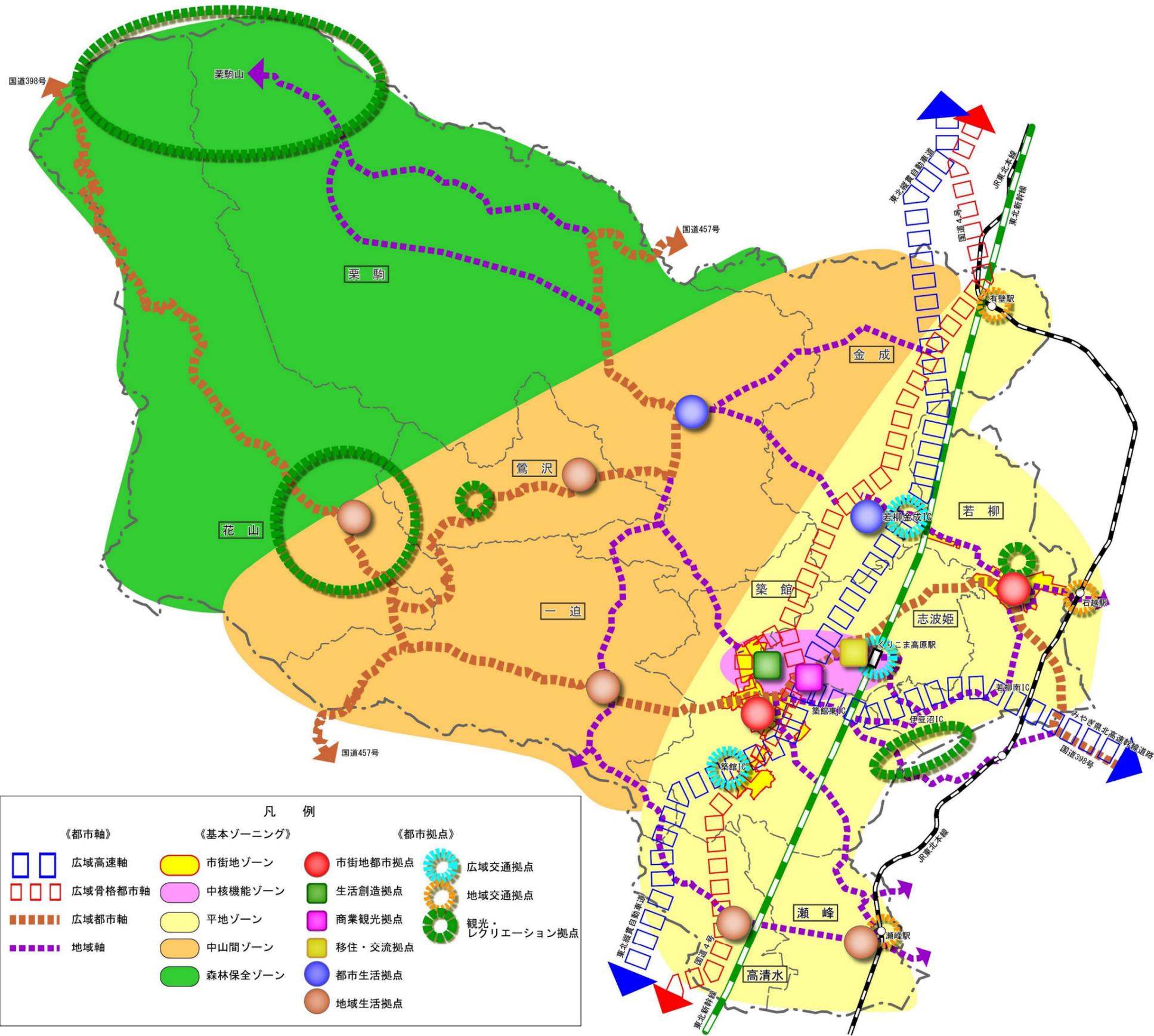
(6) 地域交通拠点

- ・JR 東北本線瀬峰駅、石越駅(登米市)、有壁駅の周辺地域を位置づけます。市民の生活の足となる公共交通等の利用促進を図るよう、鉄道とバスの結節機能が充実した拠点を形成します。

(7) 観光・レクリエーション拠点

- ・広域的な集客のある栗駒山、伊豆沼・内沼、花山湖の各周辺、細倉マインパーク及びくりはら田園鉄道公園を位置づけ、水辺・緑の環境や歴史文化資源を活かした拠点の形成を図ります。





凡例		
《都市軸》	《基本ゾーニング》	《都市拠点》
□□□□	市街地ゾーン	●
□□□□	中核機能ゾーン	●
□□□□	平地ゾーン	●
□□□□	中山間ゾーン	●
□□□□	森林保全ゾーン	●
■	生活創造拠点	●
■	商業観光拠点	●
■	移住・交流拠点	●
■	都市生活拠点	●
■	地域生活拠点	●
■	広域交通拠点	●
■	地域交通拠点	●
■	観光・レクリエーション拠点	●

図3-2 将来都市構造図